

中国語教育学会会報

第11号(通巻36号)

2004年5月26日発行

事務局は6月に移転予定。新所在地はp.4を参照してください。
東京都世田谷区桜上水3-25-40
日本大学文理学部中文研究室
室内郵便番号 156-8550
郵便振替口座 00110-1-191152

04～05年度の学会役員を委嘱(p.1) 月例研究会は6月からスタート(p.4)

去る3月27日(土)に開催された全国大会で依藤醇会員(東京外国語大学)が会長に選出され、このほど新会長の構想に基づく役員人事が決定した。選挙による役員選出のほか、会長委嘱による役員を加えて、会務を円滑に遂行できる

ように体制が固められた。事務局の所在地は本年6月から東京外国語大学に移ることになった。今後、会員からのご連絡等は別掲の宛て先をお願いしたい。事務引き継ぎ等の関係で、月例の研究会は6月からスタートする(p.4掲載)。

ご挨拶

今回思いがけず中国語教育学会の会長職を務めることとなりました。「郵送による投票に基づき総会で選出」という方式で、こうした場合の慣例として辞退させていただくこともかなわず、非力を省みずお引き受けすることとなりました。

本学会は過去2年間(前身の中国語教育協議会を含めると6年間)、奥水前会長のご努力の下、着実に発展を遂げてまいりました。このことは、月例会の定期的開催、会報の(ほぼ隔月に1回の割合での)発行、年1回の総会の開催、会誌「中国語教育」(1、2号)の発行等が軌道に乗っていることに見てとることができます。しかしながら、現在の日本における中国語教育の占める位置と重要性を考える時、当学会に対して、今後一層の質的量的発展が求められることは明らかであります。役員・会員各位のご協力の下で、学会の発展のために微力を尽くしたいと思っております。

なお、事務局の移転と、新体制の実質的充足は6月頃を予定しております。事務引継ぎ等の面で会員の皆様にご不便をおかけすることもあるかと思われまますがご寛恕のほどお願い申し上げます。

2004年5月

中国語教育学会会長 依藤醇
(東京外国語大学)

中国語教育学会役員(2004～2005年度)名簿

顧問：奥水 優
会長：依藤 醇
代表理事：佐藤富士雄 中野貞弘 西川優子 平井和之
理事：相原 茂 荒川清秀 榎本英雄 遠藤光暁 大川完三郎 大崎雄二 郭 春貴
加藤晴子 小寺 研 高橋弥守彦 武信 彰 陳文正 塚本慶一 平井勝利
古川 裕 三宅登之 守屋宏則 山田眞一 吉田隆司
会計監査：植村麻紀子 竹中佐英子
幹事：石田友美 井田みずほ

第2回全国大会 研究報告 発表要旨 再録(その2)

大会に参加されなかった会員のため、当日配布の資料から報告の「要旨」を会報に掲載する。今回は平井和之会員の報告「大学生の「基礎語彙」」を、紙幅の関係から、報告者の了承を得て一部を省略し、以下に収録する(文責:事務局)。

この報告は、全国高等学校中国語教育研究会が刊行(1999年6月)した《中国語教育のめやす》に掲げる語彙表に関し述べられたものである。《めやす》によれば、語彙表の作成にあたり、語彙数は700語程度とし、高校生の学校生活や日常生活においてなじみのある語、高校生が中国訪問の際に交流する上で役立つ語等を考慮したほか、中学校学習指導要領に示されている必修の英単語を含むという。

大学生の「基礎語彙」(嶽)

平井和之〔日本大学〕

1999～2001年度に、東京外国語大学中国語専攻で「中国語科教育法」の授業を行った。その授業の一環として《高校中国語教育のめやす》中の「言語材料:語彙編」に見られる語で、何が基礎語で何が基礎語でないと思われるかを受講生各人に考えさせた。本発表はその結果を整理したものである。

予想し得ることではあるが、「基礎語彙か否か」「教育に必要か否か」をそれなりの根拠に基づいて判断することは学生には些か困難であると思われる。彼らの興味は名詞に集中する傾向があり、特に虚詞についてはあまり考慮を払わなかったようである。そのため本発表はむしろ現在の大学生の興味・関心についての意識調査に類する結果になってしまったことは否めない。しかし語彙によっては多くの学生が共通して「不要」と判断するものもあり、教材作成においてそれを全く無視することはできないであろう。

いくら「基礎」語彙とは言っても、日常生活のかんがりの場面をカバーするには1000語程度では所詮無理があり、教材、特に文法中心の教材ではむしろ「この文法事項を説明するためにはどのような語彙が必要か」という観点から語彙を選定すべきであろう。無論その際あまりに非日常的な語彙を選ぶべきではないが、せいぜい学校生活を中心としたかなり限定的な場面に用いられる語彙を主とすべきである。このような語彙は実際のコミュニケーション上の必要性から見れば或いは「基礎語彙」とは言い難いかもしれないが、「サバイバル中国語」(それは具体的事物を表す名詞の数が勝負となろう)ではなく、中国語の「言葉のしくみ」を教えるための「教育基礎語彙」としてそれなりの重要性を持つ。

☆99年度調査の結果(受講生11名) ※00年度と01年度の分は紙幅の関係で割愛する。

(学年末の課題)「高校生にとって不要と思われる語を削除し(最大20語程度)、その分必要と思われる語を追加しなさい。また、その理由を簡単に述べなさい。」

削除(複数人が挙げたもの)

単に不要だから

洋食関係: 叉子(3), 刀子(3), 黄油(4)

動物: 猴子(3), 老虎(5), 老鼠(4), 青蛙(6), 蛇(3), 獅子(4), 兔子(3), 熊貓(2), 鸭子(2), 燕子(4), 羊(2), 猪(2); 匹(4)

その他: 办公室(2), 玻璃(4), 地球(2), 电报(3), 国旗(2), 海关(2), 集团(2), 自来水(2), 哎呀(2), 包(2), 哈哈(3), 刻(2)

同義語・類義語がすでにある, あるいは他の同義語・類義語と代える

爱(≒喜欢)(2), 报(→报纸)(3), 遍(≒次, 回)(5), 常常(→常)(6), 得dèi(≒要)(6),

灯(≒電灯)(4), 读(≒看, 念)(5), 干(≒做)(2), 刚刚/刚(8/1), 角/毛(2/1), 教师(≒老师)(4), 今后(≒以后)(2), 收录机/录音机(3/1), 趟(≒次, 回)(3), 往(≒向)(2), 一块儿(≒一起)(7), 钟头(≒小时)(3)

追加(複数人が挙げたもの)

报纸(“报”の代りに)(3), 常(“常常”の代りに)(3), 出租汽车(2), 地址(2), 服务员(2), 公共汽车(2), 还huán(“借”の反義語として)(2), 接(2), 啤酒(2), 生气(2), 手机/携帯電話(2), 位(2), 也许(2), 脏(“干净”の反義語として)(3)

※削除語彙では動物名と同義語・類義語が目立つ。追加語彙はほとんど共通するものがなく、

各人が勝手に挙げている。ただ、用法の広い類義語と差し替えるべき(“*一张报/一张报纸”“*不常常/不常”)という点と、反義語も一緒に教えるべきという点が注目される。

★ 高校・大学で中国語を学習する意義

・「中国語が話せる」を必ずしも第一目標とすべきでない。今の日本社会において「外国語を話せる」能力はサバイバルに必須とは言えない。

・「読み書き能力」の重要性：書かれたものを通して実際に知識や情報を取得できる。インターネットを通じて時間差の少ないコミュニケーションが可能(必ずしもface-to-face communicationでなくてよい)。

・「聞く力」の向上は「語彙力の向上」(=知っている語彙しか聞こえてこない)と「場慣れ」(=中国人の思考傾向に慣れる)による。前者は「多読」によって養成される(文脈の中で意味を理解する。単語帳では不十分)。後者は留学等それなりの環境が必要。

★日本人教師の役割

・理論を踏まえた「発音のコツ」(ネイティブの発音をただ聞くだけで正しい発音ができるのではない)。

・「読解」と「作文」を通じた文法と語義の習得。

→然るに文法・語彙面で「易から難へ」を踏まえ、且つ読むに価する初級からの読解教材の編纂は至難(且つ急務)。

→初級の作文教材は実質的には文法教材であって、「表現意図」等に基づくべきではない。(それは会話教材の役割。また「書面語」による作文を目指すものでもない)。

→作文教材中の語彙は“為語法教学服務”であるべき。

★「教育基礎語彙」という考え方

ある文法事項を説明する例文や練習問題に使用するのに適当な語彙。なるべく学習者にとって身近な語彙(その範囲は学習者層によって異なる)であることが望ましいが、必ずしも使用頻度が高久なくてもよい。常に、「この文型にはどんな語彙が必要か」「この語彙でどのような文型が作れるか」を意識すべきである。「コミュニケーションに最低限必要な語彙」では量が多すぎる(文法教育における語彙と会話教育におけるを分けて考える)。

★「中国人にちょっと話したら通じた」「映画のセリフで字幕を見なくてもわかったセリフがあった」等の体験は刺激的であり、中国語学習に対する興味を深めるであろうことは間違いない。しかし「楽しく学ぶ」だけでなく、地味な訓練をコツコツ続けることもそれに劣らず重要である。

事務局移転のお知らせ

これまで日本大学文理学部に所在した学会事務局を来る6月から下記に移すことになりました。

〒183-8534

東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学 中国語研究室内

中国語教育学会

なお、ご連絡をいただく際はこれまでと同様、郵便でお願いいたします。

※今回の会報発行と会費請求まで旧事務局が担当しました。これまでのご協力を厚くお礼申し上げます(旧事務局)。

新年度会費納入のお願い

今回の会報郵送に際し新年度会費納入のお願い状と、振り込み用紙を同封いたしました。年会費は5,000円です。前年度未納の方は2年分一括してお振り込みください。別紙お願い状に請求額を記載しましたので、ご確認ください。郵便局の受領書にて領収書とさせていただきます。

なお、未納が続いている方には、納入のない場合、規定により除籍の手続きをする旨お知らせ申し上げます。ご理解ご協力をお願いいたします。

※左記の通り、事務局所在地を移転しましたが会費納入先の郵便振替口座は、当面これまでと同じとし、変更いたしません。

6月例会のご案内

日時：6月19日(土)14時～

会場：東京外国語大学

(東京都府中市朝日町3-11-1)

研究講義棟1階 104教室

交通：JR中央線武蔵境駅から西武多摩川線で2つ目の多磨駅下車徒歩5分。または新宿駅から京王線飛田給駅下車、飛田給駅北口からバス8分、東京外国語大学前下車。⇒右記の案内図参照。⇒

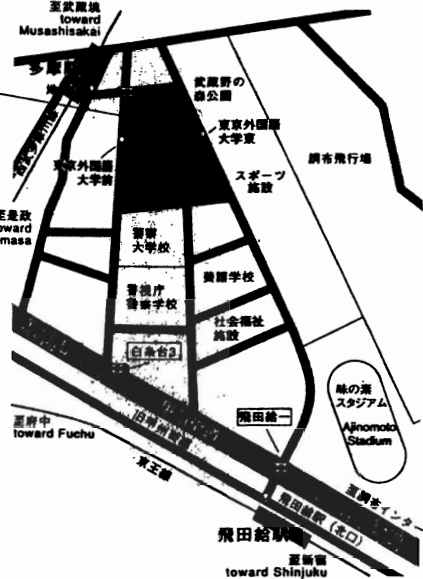
人と題：竹中佐英子(目白大学・非)

《汉语语音教学法分析》

余文青(東京外国語大学)

《日本学生汉语学习中的几个问题》

東京外国語大学
Tokyo University
of Foreign Studies



◆◆編集後記◆◆中国語教育学会は02年3月の設立以来、会員のご支持とご協力により、順調に活動を続けてまいりました。新たに会長に選出された依藤(より)醇会員の下で、6月から新事務局が活動を開始します。全国中国語教育協議会(96年秋に準備会発足、97年10月正式発足)から数えて7年余にわたり、不十分ながら会長を務めることができ、うれしく存じています。会員各位に厚くお礼を申し述べます。これまで幹事の仕事を一手に引き受けてくださった島田亜実会員には心から感謝いたします。会報の編集は今回の通巻36号を以て新事務局に移ります(興水)◆◆総会で設置を認められた「学力基準プロジェクト委員会(仮称)」の始動が遅れましたが、次号では活動をお知らせできるでしょう◆◆学会誌《中国語教育》第2号は創刊号と同様、東京神田の内山書店に販売を委託しました。頒価は¥2,500(税抜き)です◆◆大会欠席の会員には学会誌を郵送しましたが、白方直美、田鳴子の2会員宛ての分は転居先不明で戻ってきました。宛て先をご存知の方はお教えてください◆◆